

お客様各位 元気通信

WE LOVE 日本酒 顔晴(がんば)ろや!

蟹酒

蟹ミンたつぷりのズワイガニ雌の甲羅にお酒を入れ
燗鍋代わりにし卓上コンロにかける。
火を止めてしばらく待ちます。甲羅が焦げて、
お酒も香ばしく、いっそう美味しくなります。



突然何をいいたすの?とうとうおかしくなったのじゃない?・・・という声が聞こえてきそうな気もしますが、大好きな日本酒を造っている方たちに少しでもエールを届けたい!という気持ちにかられて思わず書いてしまいました。

ガンバレ! ガンバロウ!という声援は時として「もう十分ガンバってるんだ!これ以上どうしろというのだ!」という、一種追い詰められたような気になることがあるのではないかと最近考えていました。「頑張る」という字は「頑なに張る」。非常に疲れてしまう言葉でもあるわけですね。ですから、人に対して「頑張つて!」という言葉は掛け辛くなってしまっていたのです。

ところが七月にセミナーで聞いた話の中で同じガンバルでも顔が晴れると書いてガンバル、という言葉が出てきたのです。なるほど、当て字ではあるけれど何だかとても元氣の出る言葉に代わるものだなあ!と「目からうろこ」状態でした。能天気な私はそれ以後この「顔晴る」という言葉を拝借している次第です。ものの見方、考え方は一つじゃない、色んな角度から色んな見方ができる。過去の経緯や歴史は正しく認識する必要はあるし基本はあくまでも基本としてしっかり身につけなければならぬけれど、固定概念に捕らわれていたのでは、ものすごいスピードで変化をしていく時代に対応しきれない。



お酒も同じことが言えるのではないのかな、と思います。時代に迎合する、ということではなく時流に乗る一方で、日本酒の持つ奥深い味わいをしっかりと伝えていくことが必要なのではないかと、ここでそういう自分は固定概念に捕らわれていないか?といますと・・・「ぬれオカキ?なにこれは!ただ湿気ているだけじゃない?オカキは硬いものにきまっているでしょ!」と、こんな具合でして、まだまだ脳内改革が必要なようです。

日本の野鳥シリーズ

コマドリは駒鳥

生産部 佐藤 弘

忙しい暮らしを続けている内に山から遠ざかり、いざ行こうと言う時になって山靴が無い事に気付いた。広くもない家中を探しても見つからなかったそれが、次男坊が東京の大学を卒業した春になって出頭してきた。確かめもしないが、カミさんの差し金ではなく、どうやら次男坊が自ら画策した陰謀らしい。

白馬岳を新潟側から登るコースの基地、蓮華温泉は絶好の探鳥地だ。針葉樹と広葉樹が入り混じっているから鳥相が豊かだ、つまり出現種が多いとベテランは言う。だから梅雨の晴れ間には、稜線のライチョウをはじめ亜高山の夏鳥総出演となる。

中で私が好きなのはコマドリだ。標高 2,000mくらい迄登るとさすがに息が上がりへたばるが、この辺りで聞くコマの囀りは素晴らしい。テリトリーの境界近くで二羽の雄が互いに張り合って鳴く様は、春の渡り途中で鳴く発声練習の様な囀りとは迫力がまるで違う。それが近くならステレオで聞こえる事がある。

本種は「ヒン・カララララ」と鳴く声が、勇壮な駒のいななきに似るのでその名がついた。日本三鳴鳥と称されるに値する品格と清涼感のある声や、顔から胸にかけての鮮やかな蜜柑茶色を愛でて、古くは武家が好んで飼ったと言う。

知る人ぞ知る本種の学名(ラテン名)は akahige で、近縁のアカヒゲが komadori だ。登録時に取り違えたもので、学名の訂正は絶対にできないらしい。人は誰でもミスをするのだろうが、確認すれば防げる不注意ミスが案外多いという教訓の様だ。

さて、人気投票をやるから好きな鳥を 10 種選べと言われたら、私は 10 票全部をコマドリに投じるインチキを本気でやると思う。



